

第 1 回（仮称）やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会 会議録

会議名 (審議会等の名称)	第 1 回（仮称）やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会	
開催日時	平成 1 9 年 1 1 月 2 8 日（水）午後 3 時 1 0 分～午後 5 時 1 5 分	
開催場所	市役所 5 階 全員協議会室	
出席 状 況	検討委員	6 名（小川委員、倉田委員、桑谷委員、西巻委員、古橋委員、米屋委員）
	アドバイザー	（株）シアターワークショップ 伊東氏ほか 2 名
	事務局 (担当課)	4 名（企画部長、企画政策課長ほか 2 名） 企画部 企画政策課 総合政策担当 （内線 5 3 0 4）
	傍聴人数	なし
<p>1. 会議次第</p> <p>(1) 市長あいさつ</p> <p>(2) 委員自己紹介</p> <p>(3) 検討委員会の役割について</p> <p>(4) 委員長の選出、副委員長の選出</p> <p>(5) 大和市の概況について</p> <p>(6) (仮称) やまと芸術文化ホールの建設に向けて</p> <p>(7) 文化施設の状況について</p> <p>(8) 基本コンセプトの検討</p> <p>(9) 今後のスケジュールについて</p> <p>(10) その他</p> <p>2. 議事要旨</p> <p>(1) 市長あいさつ</p> <p>(2) 委員自己紹介</p> <p>(3) 検討委員会の役割について</p> <p>○市から「(仮称) やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会設置要綱(資料 1)」について説明し、検討委員会の役割が確認された。</p> <p>○市から「検討委員会の公開及び会議録等の公表等について(資料 2)」について説明し、委員会の公開・傍聴について了承された。</p> <p>○議事録については、市民が閲覧しやすいよう要点を取りまとめ、公開していくことが確認された。</p> <p>(4) 委員長の選出、副委員長の選出</p> <p>○委員の互選により委員長は倉田委員、副委員長は桑谷委員が選出された。</p>		

(5) 大和市の概況について

○市から「大和市の概況について（資料3）」について説明。

委員長：資料に関して、何かご意見、ご質問はないか。

委員：市内に大規模な企業や工場はあるか。

事務局：市庁舎に隣接するショッピングセンターは、かつてのいすゞ自動車系の自動車工場の跡地に建設されている。この工場の転出をはじめ、大規模工場は減少しているが、企業としては、中央林間にIBM、ビクターなどの事業所がある。

委員長：企業のメセナの文化活動への支援は行われているのか。

事務局：現時点ではないと認識している。

委員：在留外国人はどういった方が多く、またどういった所で働かれているのか。

事務局：かつて市内にはインドシナ難民の定住促進センターがあった。

入所者が一定期間訓練を受けた後、市内に定住し、家族を呼び寄せて暮らすようになったケースもあり、インドシナ系の方が多く住んでいた。

近年は南米からの移住者が多く、ペルー、ブラジル、アルゼンチンの方が多く住んでいる。英語圏ではフィリピン、アメリカ、インドの方が多い。

委員長：外国人登録者数の比率が2.96%というのはいくつかと思うが、外国人の市民の皆さんは地域の文化活動や、自国の文化を広める活動には参加されているのか。

事務局：財団法人大和国際化協会が、交流促進や援助などの活動を行っている。

また、教会などを通してコミュニティが形成され、情報交換などが行われているようである。

委員：市の財政状況を教えてほしい。

事務局：一般会計は600億円程度である。

財政力指数（1より多いと、地方交付税交付金がもらえない不交付団体・裕福団体であるということを示す数字）は1.07で、地方交付税交付金が交付されていないという状況である。

大和市の財政の健全さは、非常に堅実な経営を行ってきた結果と認識している。

本市は工場・事業所が少なく、住居系が多い土地柄であり、法人税収入が少なく、住民の皆様の住民税・固定資産税が主な税収となっている。

開発されるような場所は少なくなっている状況である。

通勤通学は都内や横浜の方が多いと思う。

(6) (仮称) やまと芸術文化ホールの建設に向けて

○市から「(仮称) やまと芸術文化ホールの建設に向けて（資料4）」について説明。

(7) 文化施設の状況について

(8) 基本コンセプトの検討

○アドバイザーから「文化施設の状況について・基本コンセプトの検討（資料5）」について説明。

① 意見

委員：『すべての世代が集まりやすい雰囲気と風格を併せ持つ施設』

・近隣他市と同じような客席数の多いホールは検討から除外しても良いと思う。

・市民の発表の場とすることが適当だと思うが、先ほどの現状報告では、芸術文化活動

- が活発だとは思えない。ホールを建設するなら何十年も運営する覚悟が必要である。
- ・これから望まれるホールは、若い世代も含めた文化の核となる拠点施設であり、居心地の良い雰囲気を持ちながら、風格のある施設を模索すべきである。

委員：『新たな観客と文化活動を掘り起こす施設』

- ・本年4月に昭和音楽大学は新百合ヶ丘に移転した。新キャンパスには約1,300席のテアトロ ジーリオ ショーワを設置し、地域に開かれたコンサートを開催している。
- ・新百合ヶ丘は文化度の高いエリアであり、舞台芸術愛好家も多いが、古くから新百合ヶ丘に住んでいる方々などの、これまであまり舞台芸術に親しんでこなかったと思われる人々も気軽に来館してくれている。
- ・チケット価格の安さもあり、予想以上に幅広い層の方が気軽に訪れ、リピーターも生まれてきている。
- ・昭和音大が移転し、行政と協力して、積極的な地域交流事業を行っている成果であろう。
- ・私自身アマチュアで音楽活動を行っているが、大和市の方が実際に地元で文化活動を行っているか疑問もある。
- ・新たにホールを建設するならば、これから地元で始める可能性のある人、つまり、使う側を掘り起こしていくような運営をしなければ、結局ホールが有効活用されないのではないか。

委員：『地域に住む潜在的な来館者のために』

- ・ホールを建設したら、何十年も使用することになるが、維持管理によりお金がかかる高機能なものでなくても良いのではないか。
- ・普通はホールを使う人の意見を聞いて施設を作るが、「こない人」のことを考えて作るということが必要ではないか。
- ・アマチュアの発表の場とすることも良いが、触れてもいない、触れようとしもない人にきっかけを与えることを考えたい。
- ・「地域からの発信」、「オリジナリティが重要」と言われるが、それよりも住んでいる人が満足できるものでありたい。大人で動き回れる人は良いが、子ども、青少年、高齢者、障がい者など、これまで「こなかった人」が集まる施設を目指すべきである。

委員：『庶民派の劇場－良質なものを低料金で提供』

- ・全国各地にずいぶん大きくて立派な施設ができていますが、市民はほんとうに喜んでくれるのだろうか。
- ・施設を作ればよいという発想では長続きしない。10年前後で活用されなくなるという失敗を繰り返してきた。まずは、舞台芸術に限定しない広い視点での施設づくりを考え、それから地域の活性化につながることを考えたい。
- ・これまでは客席数を決める根拠があいまいで、「NHKのど自慢」を誘致できる客席数が基準になっていた。その都市に舞台芸術ファンがどのくらいいるのかを基準にして議論すべきである。
- ・劇場の中で一番大きなスペースを占めるのはロビー、客席であり、ここに劇場の殆どがあると言っても過言ではない。これからは、観客の立場で劇場づくりを考えたい。
- ・劇場の目的は作品をお観客さんに楽しんでもらうことである。そのために、ささやくような台詞や人の目の動きまでもが見える劇場が望ましい。

- ・舞台芸術は人づくり(人間形成)を目的としているのだから、教育や福祉と同様にお金を投資すべきである。
- ・最近のコーヒー店は、良質な豆で安い値段のコーヒーと場を提供している。そこには仕掛けがある筈であり、それを劇場づくりや作品づくりに生かすべきである。

委員：『地域の特性を知り、開館を新たなスタートと捉える』

- ・これまでの首長は、周辺の都市にあるホールよりも少しでも客席数の多いホールを求める傾向があった。また、成人式を基準として客席数を決めるため、客席数が多くなっていた。
- ・施設を建設することが目的なのではなくて、作った後に活用することが目的なのである。
- ・基地の騒音や公共施設の配置、道路状況など大和市の都市状況など、大和市を知らないと言えない。まちめぐりツアーをして、状況を視察したい。
- ・他の委員から高機能なホールでなく、シンプルで良いという意見があったが、従来の多目的ホールが走行式音響反射板や可動プロセニウムを設置することによって、それぞれの用途に対して高いレベルで対応できるようになってきたという流れがある。
- ・シンプルということと、同時に必要とされる多目的であることの矛盾を、どう解決し、成就させるかが課題だと感じている。

委員：『足を運びやすくする機能の追加』

- ・市民の活動実態がわからないので、完成後の使われ方のイメージが湧かない。
- ・ホールは常に人が足を運ぶ施設ではないので、市民が集まりやすい機能を複合させてはどうか。
- ・複合機能は来館の動機づけになり、活動を通して交流する場を生み出す。事例としては、茅野市民館の図書室がある。
- ・大和市の地形は南北に細長い。どこに配置すれば良いか、十分に検討したい。

② 質問

委員：ハーモニーホール座間の事業収支が良いという説明があったが、そのソフトの中身を教えて欲しい。アマチュアが使って活性化しているのか、それとも他所から呼んでいるのか。

アドバイザー：貸館の収支ではなく、自主事業の収支である。自主事業は「鑑賞」「普及」「創造」の3つの種別に分けられており、ハーモニーホール座間は鑑賞事業の事業本数が62本、実施回数97回、収支比率は100.3%で若干の黒字になっている。鑑賞事業で黒字のホールは沢山あるが、その理由は事業本数が少ないためであり、座間は、自主事業を100本近く実施し、なおかつ黒字というのは非常に優秀な成績と言える。

委員：どのような事業が行われているのか。

アドバイザー：市民オペラ、クラシックコンサート、落語会、コンサートやトークショーなどである。

(9) 今後のスケジュールについて

○市から「(仮称)やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会検討スケジュール(案)(資料6)」について説明。

(10) その他

○市から次回以降の委員会開催日程の調整依頼。

3. 委員会資料

「(仮称) やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会委員名簿」

資料1 「(仮称) やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会設置要綱」

資料2 「検討委員会の公開及び会議録の公表等について」

資料3 「大和市の概況について」

資料4 「(仮称) やまと芸術文化ホールの建設に向けて」

資料5 「文化施設の状況について・基本コンセプトの検討」

資料6 「(仮称) やまと芸術文化ホール基本構想検討委員会検討スケジュール (案)」